

# 平成23年度第1回行政監査結果報告書（概要）

## 第1 監査実施概要

### I 監査テーマ（P1）

「シニア世代の生きがいづくりについて」

### II 監査テーマ選定の趣旨（P1）

高齢化社会の進展に伴い、区は、退職後のシニア世代の区民が生きがいのある生活を送るために、地域における交流と社会参加を促進する必要がある。また、団塊の世代が地域社会の新たな担い手となり、その豊かな知識と経験が地域のために活かされることが求められている。

そこで、平成23年度第1回行政監査では、シニア世代の学習・就労・ボランティア活動等の社会参加促進に関する事業について、事業は計画的・効果的に行われているか、事業に係る経費は経済的・効率的に使われているか、関係課・関係機関との連携は図られているか等の観点から検証を行った。

### III 監査の着眼点（P1）

- 1 事業は計画的・効果的に行われているか。
- 2 事業に係る経費は経済的・効率的に使われているか。
- 3 関係課・関係機関との連携は図られているか。

### IV 監査対象課及び事業（P1）

健康生きがい部生きがい推進課【全ての事業】

区民文化部地域振興課【ボランティア・NPO活動の推進事業】

産業経済部産業活性化推進室【創業支援事業】

教育委員会事務局生涯学習課（社会教育会館を含む。）【生涯学習事業】

### V 監査実施期間（P2）

平成23年5月30日（月）～平成23年11月25日（金）

## 第2 監査結果

### I 現況と問題点（P3）

- 1 シニア世代の生きがいづくりに関する概況（P3）
- 2 事業の現況と問題点（P8）
  - (1) 学習関係事業（P8）
    - [生きがい推進課所管事業]（P8）
    - [生涯学習課所管事業]（P21）
  - (2) 就労関係事業（P30）
    - [生きがい推進課所管事業]（P30）
    - [産業活性化推進室所管事業]（P34）
  - (3) ボランティア活動関係事業（P36）
    - [地域振興課所管事業]（P36）
  - (4) その他の事業（P39）
    - [生きがい推進課所管事業]（P39）

## II 検討・改善を求める事項（P48）

### 着眼点1 事業は計画的・効果的に行われているか。

- 1 グリーンカレッジ区民企画講座の効果的な実施（P13）  
各種講座アンケート結果等により企画内容を十分検討し、更に、板橋グリーンカレッジ運営協議会で協議するなどして、申込者数が増加するよう努力されたい。
- 2 講座受講者アンケートの充実（P19）  
年齢・性別・職業等の属性、今後に生かしたいこと、実際に活動したいことなどの項目を追加して、アンケートの内容が一層充実するよう検討されたい。
- 3 社会教育会館の施設利用率の向上（P29）  
一般区民の利用や調理室を会議等に使用できるようにすること等、利用率が向上するよう、その対策を検討されたい。
- 4 ボランティア基金事業補助の見直し（P37）  
平成21年度以降、年度末における基金残高は年々減少している。補助事業を継続するためには、寄付金等の財源を確保するか補助事業を見直すことが必要であり、補助事業の今後のあり方について十分検討されたい。

### 着眼点2 事業に係る経費は経済的・効率的に使われているか。

- 1 グリーンカレッジ大学院の効率的な運営（P14）  
大学校受講生に大学院受講に対する意向等を聴取するなどして、受講者数が少ない原因を把握した上で、大学院の受講者数が増加するよう対策を講じられたい。
- 2 大学公開講座の効率的な実施（P22）  
申込者数が定員の半数に達していない講座について、区民ニーズの把握を十分行い、申込者数の増を図るよう努力されたい。
- 3 シニア世代への創業セミナーの見直し（P34）  
延受講者数が延定員の半数に達していない状況となっており、創業相談等の個別対応の際にシニア世代の動向やニーズを把握するなどして、創業セミナーのあり方について検討されたい。
- 4 シニア学習プラザの施設利用率の向上（P44）  
施設利用について、指定管理者に対し、学習支援事業等の増によることはもとより、貸出施設としての周知を徹底して、利用率を向上させるなど、効果的・効率的な施設運営となるよう指導されたい。

### 着眼点3 関係課・関係機関との連携は図られているか。

- 1 老人クラブ等の活動の活性化（P40）  
老人クラブ会員数が減少している原因について、更に把握するとともに、老人クラブ等と連携し、活動の活性化に向けて一層努力されたい。

### Ⅲ 総括意見（P50）

#### ○ ニーズの把握について

区は、シニア世代の区民が生きがいを持って充実した生活を送るため、各種施策を展開している。とりわけ、多様化・高度化する学習要求に応えるために様々な講座を実施しており、大半の講座において、受講者から講座の満足度や興味のあるテーマ等について、アンケートを実施している。

満足度の高い事業を実施するためには、アンケートのデータを分析し次の事業に反映できるよう、アンケートの内容を工夫し、的確にニーズを把握することが肝要である。そのためには、一定の参加者数を確保する必要があり、事業内容をわかりやすく周知することや定員を柔軟に設定することが求められる。更に、アンケートは、経費を必要とせずに区民のニーズを把握できる有効なツールであり、一層の充実が求められる。これにより、次の事業の満足度を高めるという好循環の形成が期待できる。

なお、一部の講座や敬老祝品の贈呈事業等、アンケート等を実施していないものについては、効果を検証しつつ事業を進められたい。

#### ○ 事業の方向性について

学習関係事業については、シニア世代のニーズを十分把握するとともに、社会的要請を勘案した上で、事業目的に即した効果的・効率的な実施が必要である。事業内容については、地域に愛着を持つきっかけとなるものを織り込むなど、特に、定年退職後、地域に戻ってきたシニア世代の区民が、地域活動に一層かかわりやすいものとする必要がある。

また、就労関係事業については、区がシニア世代を対象に実施した社会参加に関する意向調査結果によると、就労し収入を得たいとする希望が強い。更に、多くの高齢者がシルバー人材センターからの収入を家計に充てているという現状にある。

創業・就業支援事業に加えて、現役とは異なるものの、経済的・社会的に一定程度満足を得られるような働き方に対する支援等、区として多様な施策を推進することが求められている。

ボランティア活動関係事業については、的確な情報提供が重要である。ボランティア活動の需要を十分踏まえた上で、シニア世代の区民の希望に沿った情報を提供し、継続的な活動に結びつくような支援に努められたい。

#### ○ コーディネート機能について

区は、地域社会活動への第一歩を踏み出したシニア世代の区民に対して、ニーズに応じた情報提供を行うとともに、その区民が持っている知識や技術を身近な地域で発揮できる機会につなげる必要がある。

そのためには、例えば、個人カルテを整備することにより、シニア世代が持つ知識・技術、活動希望内容等の人材情報を得るとともに、地域社会や地域の事業者の意向等を付度しつつ、人材登録制度等を確立し、地域社会活動をコーディネートすることが課題である。

コーディネート機能を担う者も、シニア世代の区民から適材が得られることが好ましい。生きがい推進課が実施している人材育成講座受講者の活用はもとより、即戦力となり得る者の情報収集を行うなど、一層の人材確保に努められたい。

区が開設を計画しているシニア活動センターでは、第一歩を踏み出したシニア世代の区民が、希望を持って地域社会活動を始められるような体制整備を望むところである。

以上の視点を踏まえ、区は、シニア世代の区民が、健康でいきいきと活動することはもとより、その豊かな知識や経験が地域で生かされ、生きがいのある心豊かな生活を送ることができるよう一層積極的に取り組むよう期待する。